

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

母親に「おこづかい」を通して しつけの自信と勇気を持たせたい

静岡県金融広報委員会
金融広報アドバイザー
杉本卓也

杉本卓也さんは、「自立をめざしたおこづかいの使い方、与え方」をテーマに、講義活動に取り組んでいます。子どものお自立の話を通して、母親自身の自立をも促す杉本さんの講義は口コミで評判を呼び、依頼が絶えません。

* * *

杉本さんの活動は、小1の子どもを持つ母親を対象とした「家庭教育学級」と「放課後児童クラブ」での「おこづかいの話」が中心です。

杉本さんは、金融広報アドバイザーになった平成12年ごろに比べ、最近では、「子どものおこづかいについて話を聞きたい」との要望が年々増えていっていると感じています。

母親たちの関心は、「子どもに『いつごろから？』『いくら？』『おこづかいを渡すことが適切か？』ということなんです。

杉本さんは講座でまず、「私には答えがありません」と切り出します。



静岡県藤枝市にて長く学校教育に携り、平成9年に定年退職後はスクールカウンセラーを8年、平成12年より貯蓄生活設計推進員（現在の金融広報アドバイザー）を7年務め、23年度より再委嘱を受け、現在に至る。約10年前からは地域の住民主導のボランティアとして、地域の子どもたちが遊びのなかでコミュニケーション力や社会性を育む活動「ふれあいサタデーパーク」を主宰し、高齢者と子どもとのふれあい交流を推進中。

持ちをほぐして話を進めていくことが私のやり方です」。

その結果、みんなが「自分の家庭」の話をし、「うちと一緒だわ」「そういう方法もあるのね」という家庭の実情の共有が図れます。その後、杉本さんが統計的なデータや具体的な事例を挙げて、より理解を深めていくのです。

結論は、「答えは自分で出すもの、見つけるもの」。

スクールカウンセラーやボランティアで地域の子どもたちと触れ合っている経験から、杉本さんは家庭ごとにさまざまな「生きた事例」があり、おこづかいを与えることや、その与え方は、子どもの将来的な「精神的」

「社会的」「経済的」な自立を促すことにつながることを説いていきます。

「私の目的は、お金の使い方や与え方を理解してもらおうことだけではなく、未来を生きる子どもたちを育てるお母さんたちの支援をすることです。しつけや指導は、自信と勇気がなければできません。ハウツーですぐに答えを知りたい人が多くいるか、いろいろな情報や知識を持って、自分の答えを持つことの大切さを伝えたい」と杉本さんは話します。

講義のあと、参加者からは、「子どもと親のかかわり方を教えてもらった」、「共通する答えはないことが分かった」、「他の家庭を参考に、自分の家庭のおこづかいを考えた」など多くの感想が寄せられています。

子どものお自立の話を通して、母親自身の自立をも促していく。そこに杉本さんの本来の目的があるのです。